

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2007～2010

課題番号：19530556

研究課題名 (和文) 関係性としての「文化」：多様な集合体における文化形成・変容過程の研究

研究課題名 (英文) Culture as relationships: Research on formation and change of cultures in various aggregates

研究代表者

村本 由紀子 (MURAMOTO YUKIKO)

横浜国立大学・国際社会科学研究科・准教授

研究者番号：00303793

研究代表者の専門分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・社会心理学

キーワード：文化・集合体・関係性

1. 研究計画の概要

本研究は、現実社会の多彩な集合体における成員の間でかたちづくられる種々の関係性のありようと、その維持・変容プロセスに着目することを通じて、集合体における関係性の束 (集積) として「文化」を再定式化することを試みるものである。

(1) 企業の複数店舗・部署を対象として、組織内の暗黙の規範や、リーダーシップのかたち、心理的契約のあり方など、組織の「文化」に関する調査を実施し、成員の職務満足度、ワーク・モチベーション等との関連を検討する。

(2) 自尊心の維持・高揚に際して他者との関係性がどのような役割を果たすか、またそれが「文化」によっていかに異なっているかを、日米国際比較実験・調査によって検討する。

(3) 明確な組織をもたない曖昧な集合体に「文化」と呼べるものが生まれるか、生まれるとすればその維持はいかにして可能かを、フィールドワークを通じて探究する。

2. 研究の進捗状況

(1) 企業組織における関係性と文化

① チェーン展開をしている企業の複数店舗・部署を対象として、組織内の暗黙の規範や、リーダーシップのかたち、成員の組織に対する心理的契約のあり方などに関する調査を実施し、成員の職務満足度、ワーク・モチベーションとの関連を含めて検討した。成果の一部は 2007 年夏にマレーシアで開催されたアジア社会心理学会、2008 年夏にドイツで開催された国際心理学会において発表した。現在、より体系的な分析を行って

る。

② 職場での関係性と公正さの知覚に関する日本・韓国・香港の国際比較調査の成果をまとめた論文 (Dr. Tae-Yeol Kim らとの共同研究) が、*Management and Organization Review* に掲載されることが決定した (2010 年)。

(2) 関係性に埋め込まれた自尊心の維持・高揚システム

① 自尊心の維持・高揚に際して他者との関係性がどのような役割を果たすか、またそれが文化によっていかに異なっているかを検討した。具体的には、Muramoto (2003) が日本人大学生を対象として実施した達成原因帰属に関わる研究をベースとして新たに作成した質問紙を用いて、日本とアメリカにおいてデータ収集を行った。成果の一部は 2009 年夏にホノルルで行われた *International Academy of Intercultural Research* の年次大会において発表した。現在、学術論文を執筆中である。

② 個人または集団レベルの達成 (成功) 経験に対する高揚的または卑下的な原因帰属が、異なる関係性のもとでいかに異なった印象を他者に与えるかに関する日本・韓国・アメリカの国際比較研究の成果をまとめた論文 (Dr. Susumu Yamaguchi らとの共同研究) が、*Asian Journal of Social Psychology* に掲載された (2009 年)。

(3) あいまいな集合体における関係性の多様性

① 公園に集う人々などを対象としたフィールドワークを現在も実施中である。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

計画した実証研究の多くについては、国際比較調査を含めて既に一定のデータ収集を遂行することができ、基礎的な分析も既に行った。現在も、より体系的な解析とそれを踏まえた理論構築を試みている。ただし、当初予定していた海外資本の参入を受けた企業の従業員に対する面接調査については、その後、当該企業側の事情から延期を余儀なくされている。

4. 今後の研究の推進方策

今年度(2010年度)は本研究課題の最終年度にあたるため、これまでに収集したデータの分析とまとめ、成果の発表を実施していきたい。学会発表の場としては、2010年7月にオーストラリアで開催される国際比較文化心理学会(International Association of Cross-Cultural Psychology)を予定しており、既に発表申請が受理されている。また、一連の研究成果をもとにして新たな論文の執筆を行い、国際学術誌への投稿を目指したい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

このうち直近の既発表論文は以下のとおり。

① Tae-Yeol Kim, Todd J. Weber, Kwok Leung, and Yukiko Muramoto. Perceived fairness of pay: Importance of task versus maintenance inputs in Japan, South Korea, and Hong Kong. *Management and Organization Review*, 6 (1), 2010, 31-54. 査読あり

② Yukiko Muramoto, Susumu Yamaguchi, and Uichol Kim. Perception of achievement attribution in individual and group contexts: Comparative analysis of Japanese, Korean, and Asian American results. *Asian Journal of Social Psychology*, 12 (3), 2009, 199-210. 査読あり

[学会発表](計5件)

このうち直近の口頭発表は以下のとおり。

① Yukiko Muramoto. Two different ways of enhancing the self. Presented at the 6th Biennial Conference of the International Academy of Intercultural Research, Honolulu, USA, August 15-19, 2009. [Invited]

② Yukiko Muramoto. Leadership structures, group norms and work motivation in Japanese organizations. Presented at the 29th International Congress of Psychology, Berlin, Germany, 2008,

July 21-25.

③ Yukiko Muramoto. Academic achievement and the role of the self and relationship. Presented at the 29th International Congress of Psychology, Berlin, Germany, 2008, July 21-25.